
永遠の誓い

美海桃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

永遠の誓い

【Nコード】

N5476F

【作者名】

美海桃

【あらすじ】

吸血鬼（少女）の従者の狂った愛情を書いてみました。

「…お前はわたしのモノだ。アイオーン」

束縛を告げる言葉に、燕尾服に身を包む銀髪の青年はわずかに口
の端を上げ、笑う。

その表情は穏やかで、それでいて底知れない何かを秘めていた。

窓から降り注ぐ月光を纏う銀の髪は艶やかに煌めき、闇の中に淡
い光彩を宿す。

青年の眼鏡の奥から覗く、黒い瞳に映るものは——月を背負い、
窓際にもたれる小さな主の姿だった。

「アイオーン」

静かに、従者の名を呼ぶ。

黒いフリルドレスに身を包む幼い少女。艶やかな黒髪は腰まで流
れ、長い睫毛に縁取られた瞳は血のような赤を映し出していた。陽
光を浴びたことがない肌は透き通るような白。少女の儂げな美しさ
を彩る。

「わかつているな？」

可憐な口許に笑みを浮かべ、甘くとろけるような声で少女は言う。

彼女は誰よりも尊い存在であると、アイオーンは思う。

小さき主人の手を取って、アイオーンは恭しくひざまず跪いた。

「ええ、リーゼロッテ様。人の生を捨てた時から——私は貴方だけ
のモノですよ」

手の甲に唇を寄せると、彼女は満足そうに薄紅の口唇を綻ばせた。同時に細められた赤い瞳が喜びの輝きを宿す。

少女と同様に、青年も歓喜していた。

美しい吸血鬼を手に入れた永遠^{とわ}の喜びに、胸が踊る。それをこらえ、アイオーンは妖しく微笑んだ。

(……そして、貴女は私のモノだ。絶対に離すものか)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5476f/>

永遠の誓い

2011年1月9日02時48分発行